



人権啓発コーナー

人権が尊重され、生きがいを感じられるあたたかい町

毎年開催される「少年の主張」で、八代地区の中学生代表で竜北中2年赤星季音さんが「その言葉大丈夫？」というタイトルで主張を行いました。「言葉は使い方次第で勇気をもたらしたり幸せな気持ちになったりする。しかし、その逆に相手を傷つけたり悲しませたりもする。だから、私は相手のことを考え、友人が笑顔になって元気になるような言葉をかけるよう心がけていきたい」という内容の発表でした。さまざまな人権問題がありますが、1人の力で解消できる1つの取り組みと 생각합니다。この輪を広げていきましょう。

られたもので、身近に存在する性別にとらわれた考え方に気付き、男女がパートナーとして協力・尊重し合うことに気付けさせる内容でした。その後、万華鏡を作りました。万華鏡が作り出す模様は、世界に2つとないものです。



人権学習 web 講座

テーマ ハンセン病回復者として伝えたいこと・中修一さんの講話
日時 11月13日(日) 13時30分
場所 氷川町文化センター講堂

問 生涯学習課
☎0965-5215860



地域おこし協力隊 活動レポート ③

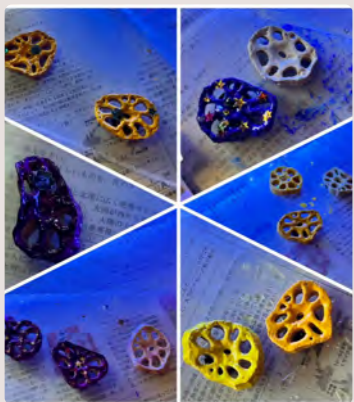
9/23 料理教室を開催！

韓国のお餅、キンパ、海苔の佃煮、韓国のおスープ、きなこクッキーを作りました。



9/9 れんこんキーホルダーのワークショップを開催！

乾燥させたれんこんに好きな色を塗り、オリジナルキーホルダーを作りました。



氷川町地域おこし協力隊としての3年の任期を終え、9月末で退任となりました。たくさんの方々に出会い、いろんな経験ができ、頑張れた3年間でした。ありがとうございました。今後は、おむすび屋さんを始める予定です。またお会いできることを楽しみにしています。



▲Instagram



八火図書館だより

今年も10月27日から11月9日は読書週間です。77回目となる今年の標語は「私のペースで、しおりは進む」です。まずは1冊本を手にとって、自分のペースで読書を楽しんでみてはいかがでしょうか。

作品を募集します

読書感想文と感想画を募集します。募集要項と原稿用紙は、カウンターにも準備しています。締め切り 12月1日(金)

提出先 八火図書館 ※小中学生は、学校を通じて募集します。

おはなし会をしました

9月2日におはなし会を行いました。「おはなしさくらんぼ」と「竜の子おはなし会」の皆さんによるすてきな読み聞かせや指遊びに笑顔の子どもたちでした。



短歌

ちはやぶる立神峡の空滝の
岩肌濡らす秋時雨かな
北野津 井田 道寛
尾花ゆれあと何回の月見かな
娘と語らんや今日の望月
西野津 古崎 スエノ
澄む空の高き果て無しそよ風の
小波に揺れる稲穂かな
西野津 古崎 栄子
何処より飛びて来たるや雀の子
親を探すや飛び廻りをり
吉本 高橋 澄子
三神宮の秋季例祭で作物の
豊穰を祝って神馬が駆ける
西上宮 廣瀬 小亀
俳句
長き夜のインテグラルはゆっくりと
北野津 井田 道寛
若衆や神馬かけ来る黄金波
西野津 古崎 スエノ
平凡の平凡に暮らす茄子料理
西野津 古崎 栄子
秋風や洗い髪撫で通り行く
吉本 高橋 澄子
岸田総理も氷川町の梨に舌づつみ
西上宮 廣瀬 小亀
ご褒美の三種の梨を子らと喰む
上鹿島 三枝 恵

おすすめ図書

「私たちの世代は」

瀬尾 まいこ

「コロナ禍を真正面から見据えて描かれた物語の中に、さまざまな気付きを与えてくれる、まさに今、読まれるべき作品です。」



新着図書紹介

| 一般書 | 児童書 |
|-----------------------|--------------------------|
| 可燃物 米澤 穂信 | そらのゆうびん屋さん くまくら 珠美 |
| マリエ 千早 茜 | わたしがはやくねるわけはね… くすのき しげのり |
| 本棚には裏がある 酒井 順子 | たねせんもんてん 曹 文軒 |
| 志麻さんの“おうちビストロ” タサン 志麻 | しごとへの道 鈴木 のりたけ |

問 八火図書館
☎0965-6213489

「処刑の部屋ⅡX」

法道寺 本田 花風

「処刑の部屋」この映画の公開は昭和三十一年、旧宮原町に二軒の映画館がありその一つ、三神宮の右隣にあった掘っ立て小屋の映画館(当時は立派な映画館に見えた)、この映画の女優、若尾文子の大きな顔が看板に描かれ、「処刑の部屋」のタイトルのその看板は、怪しげな「処刑」の文字が醸し出す雰囲気をも記憶に残しています。入場はせず、映画館の前でたむろする生徒等(私も)がいました。入りたいが入ってはいけない映画との感覚だったのは、当時、若尾文子の「性典の女優」との評価と共に、「処刑」という文字の怪しさにしり込みしたような感覚だったと思います。後々になって若尾文子のやや低音のまどろむような声なんとももの憂げく、彼女は歳を経てもテレビなどでのその声は変わらない柔らかな雰囲気を感じています。

そんなこんなで、久々にその声を聴いてみた。全くテレビ出演を期待したのですが、NHKが広く知られることになったのは昭和三十年の『文学界』に発表し芥川賞となった『太陽の季節』においてである。「太陽族」などという言葉が流行した。既成の習慣や観念を大胆に破って、「したいことをする」主人公の行動的な姿を描いた。しかし、作品としては、後に発表した『処刑の部屋』のほうがすぐれており、重い時代状況の壁にぶつかってゆく言いた正義感が血にまみれてゆく強烈な経過を、見事に描ききっている。「これは小田切秀雄の解説である。映画の中で川口浩が好演しているようだ。が自分のなかで若尾文子の看板の顔の印象が今も微かに残っている。」

町民文芸

投稿先

〒869-4814 氷川町島地642番地 企画財政課宛 (毎月5日必着)